

20260430_【閑話休題】本質を見極める

いろいろ思うところがあったりしますが、全校生徒のみなさんに話す機会はなかなかありません。そこで、全校朝礼などで、話しきれないことやその間に思ったことを、これから「閑話休題」として、掲載していこうと思います。

新年度が始まって、少し慣れてきたことと思います。

私も少しでも九中に慣れようと、授業中のみなさんの姿を廊下から見て回っています。もう少ししたら、教室の中にもお邪魔してみようと思いますが。

そんな中で、プレゼンテーションをしているクラスがありました。

彫刻を見るためにフランスに行きたい、というような内容でした。

それを聞いていて、「すごいな。10代にして本質にたどり着く人もいるんだ。」と感動しました。

今をさかのぼること、30年以上前の話になります。

当時、大学生だった私は、絵を見るのが好きなこともあり、「西洋美術史」という授業を取りました。その最初の授業でしたが、先生が、受講している生徒に問いかけました。

「『最後の晩餐』って見たことある？」ほとんどの生徒が手を上げました。

「『真珠の耳飾りの少女』って見たことある？」ほとんどの生徒が手を上げました。

その様子を見渡して、先生は、こう言いました。「それは、きっと見たのではなく、知っているということだね」続けて、「実物を見に行った人いる？」手を挙げる人はいませんでした。

その先生は、画面や写真で見た気になってはいけない、本当に見るとは、現物を自分の目で見ることで、できれば、その絵が元々あった状態で、その風景や空気を感じてこそ、見たことになるのだと説明されました。

プレゼンテーションを見ながら、この話を思い出していました。

今は、ボタン一つで、さまざまなことに出会うことができる時代になりました。なかなか、その場所に行けない、その人に会えないという場合には、さまざまな方法を通じて、その思いをかなえることができます。

でも、もし機会があるなら、見たいものを直接見たり、聞きたいものを直接見たりする機会も持ってもらえたら、さらに世界が広がるような気がします。